へき地複式教育部会

**１．研究の概要**

道へき複連　第10次長期5カ年推進計画より

１．研究主題

主体的・協働的に学び、ふるさとへの誇りと愛着をもった人間性豊かな子どもの育成

～児童生徒一人一人が仲間とつながり、

　　　　　地域とともに「生きる力」を伸ばす学校・学級経営と学習指導の充実をめざして～

２．研究主題設定の理由

　１．教育の今日的課題の解決

　２．へき地・複式・小規模学校の教育（へき地教育）の定義の転換の必要性と可能性

　３．地域のもつ教育課題の解明と解決

３.研究内容

１．「豊かな人間性」を育む学級・学校経営

（１）確かな経営理念の確立と家庭や地域と連携した確かな学びを創る特色ある教育課程の創造と推進

（２）ふるさとで学び、新しい時代を拓く、開かれた学校・学級経営の創造と推進

（３）地域に根ざし、家庭や地域と連携して豊かな心を育む教育活動の創造と推進

２．「共に高め合う」学習指導の創造

（１）個性の伸長を重視した指導計画・実践・評価の改善と充実

（２）学ぶ意欲を高める指導方法の改善と充実

（３）主体性を育てる学習指導過程の改善と充実

５．研究推進の具体的内容

各市町では、各学校の主体的な研究を大切にしながら、道へき複の第１０次長期５か年研究推進計画に基づき、石へき複部会の研究・実践の推進に努める。

各市町の代表は、推進委員となり、管内的視野から部会研究の推進にあたる。

４．研究方法

１．研究主題の解明のために各校の実践研究による検証を進める。

２．新入会員研修会、課題部会研究協議会を開催し、実践交流を行い、日常実践に生かすとともに研究の深化を図る。

３．研究紀要「へき地・複式教育」第５５号を発行する。

４．地域の特性を生かした教育課程の編成・実施・評価を推進するための資料収集を行う。

**Ⅱ．実践研究の経過と成果**

**１．実践研究の経過**

　　５月、6月　　各学校で新入会員研修を行う。

９月６日(火)　「課題部会研究協議会」　南ブロック（千歳市立千歳東小学校）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　北ブロック（江別市立北光小学校）

　　　　　　　　　　内容：授業公開・研究協議

**２．****課題部会研修会**

【開催期日】　　令和４年９月６日（火）

【会　　場】　　北ブロック　江別市立北光小学校　　（　２３名参加　）

　　　　　　　　南ブロック　千歳市立千歳東小学校　（　２４名参加　）

　　　　　　　　事務職員部異会・養護教諭部会　　　（　１１名参加　）

**（１）研究協議の概要**

**◎公開授業南ブロックの概要（指導案からの抜粋とＡＢＣグループの研究協議から）**

南ブロック　第３・４学年　道徳科　（３年生２名・４年生５名）　授業者　福島　剛先生

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **３年生**  太郎が勇気をもって行動した生き方を深く考え、正しいと思ったことは勇気をもって行おうとする意欲と態度をはぐくむ。 | | | **４年生**  正直に話した兄弟の姿を通して、自分自身に正直であることの快適さに気づき、正直に明るい心で元気よく生活しようとする心情をはぐくむ。 | | |
| 導入 | ・教師の範読  〇太郎が村の子どもたちにからかわれる場面を体験する。 | ◇  ◇  ◇  ◇  ◇◇◇ |  | ・個人で黙読した後、ワークシートへ短文化する。 | 導入 |
| 展開前半 | 〇太郎が、にこにこしていたのは、なぜかワークシートに書く  〇太郎が殿様の前に立ちはだかる場面を再現する。 | ◇  ◇  ◇ | ◇  ◇ | 〇おつりの２００円をさいふに入れてしまった場面を体験する。  〇公園で２人が会話する場面を再現する。 | か展開前半 |
| 展開後半 | ホワイトボードに書く。  →　（マグネット相互評価・自己評価）  〇ホワイトボードを中心とした交流を行う。 | ◇  ◇  ◇  ◇◇ | ◇  ◇  ◇  ◇  ◇ | ホワイトボードに書く。  →　（マグネット相互評価・自己評価）  〇ホワイトボードを中心とした交流を行う。 | 展開後半 |
| 終末 | 〇今日の授業で感じたこと、考えたことをふり返って書く。 | ◇  ◇ | ◇  ◇ | 〇今日の授業で感じたこと、考えたことをふり返って書く。 | 終末 |

①授業者から

　◇複式授業では常に動きがあるように、時間を空けないようにしている。

　◇ホワイトボードは算数を中心に考えを書いて交流する時に使用している。

　◇一般化については、「自分ならこういう経験はあるか？」という発問はしないようにしている。

　◇複式の道徳は時間とのたたかい。テンポを上げるため教科書１ページをカット、リトライして焦点化。

②交流から

　◇道徳を異学年異内容でやることの難しさを感じた。

　◇授業が構造化されていること、手立てのUDを考えていることに素晴らしさを感じた。

　◇動作化を焦点化することで、気持ちを伝えて考えさせることができることがわかった。

　◇ホワイトボードの活用によって、わたりがスムーズに行われていた。

**◎公開授業北ブロックの概要（指導案からの抜粋とＡＢＣグループの研究協議から）**

北ブロック　第５・６学年　算数科　（５年生７名・６年生４名）　授業者　山下眞紀子先生

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **５年『図形の角を調べよう』**  思判表：三角形の内角の和を基にして、四角形の内閣の和を考え、説明することができる。 | | | **６年『形が同じで大きさがちがう図形を調べよう』**  知技：縮図をかいて実際の長さを求めることができる。 | | |
| 課題把握 | ○前時の振り返り  ○問題提示  ○課題把握    ○見通しをもつ |  |  | ○習熟問題に取り組む  ・ドリルの練習問題  ・わからなくなったら、前時のノートを見て復習をする | 習熟応用・評価 |
| 解決努力 | ○一人で解決する  ○考えをノートに書く |  |  | ○前時の振り返り  ○問題提示　　○課題把握    ○見通しをもつ | か課題把握 |
| 定着 | ○考えを交流する」  ・移動交流　・ちがう意見をしっかり聞く  ・共通点を考える  **まとめ：四角形を三角形に分けて考えると求められ４つの角の大きさの和は360度になる** |  |  | ○一人で解決する  ○考えをノートに書く | 解決努力 |
| 習熟応用・評価 | ○定着問題に取り組む  ○ふりかえり |  |  | ○考えを交流する」  ・移動交流　・ちがう意見をしっかり聞く  ・共通点を考える  **まとめ：直角三角形の辺BCの実際の長さと角Bの大きさがわかっていれば、縮図をかいて辺ACの実際の長さを求められる。**  ○定着問題に取り組む　　　○ふりかえり | 定着 |

**◎公開授業北ブロックについて（ＡＢＣグループの研究協議から）**

①授業者から

◇個別指導が必要な児童が複数いるので、教師側の強いリードが必要。

◇わたりずらしについては、1年生のころから次の学習過程のみとおしをもってすすめている。

◇学習リーダーを決めることで、子供たちもスムーズにすすめられていた。

◇なるべく子どもの声を拾い、見押しをたててから他学年にうつるようにしている。

◇今年は発表の際にノートを直接見せて行うようにしている。

②交流から

　◇低学年から複式の形が身についているのがわかった。

　◇その子に合わせた指導、個別に力を育む指導・支援をしていたのが素晴らしかった。

　◇直接指導にあたっていない学年に対してむだな時間を与えていないのが良かった。

　◇自力・協働学習により、しっかり問題を解決していた。

**Ａ低学年分科会南ブロック（司会　金谷健司　　記録　大西かすみ）**

①間接指導について

◇子どもたちの動きが止まらないことを目標に。間接指導する前に必ず指示をする

②教科リーダーの育て方について

◇練り合っている部分を聞いてあげられない。◇話し合いを把握するのは難しい。

　◇ここだ！という時は、今日は一つの授業を進め、もう一つは「徹底的に練習の時間」にする。

③おすすめ教材

◇chromebookの音楽「ミュージックラボ」◇図工、プログラミング学習で使用した「ビスケット」

④語彙力と文章力をどう伸ばすか。

　◇「いつどこゲーム」で役割分担し、できた文章を確認する。◇「ことばの宝箱」を教室掲示している。

屋内, 人, 天井, 部屋 が含まれている画像

自動的に生成された説明**Ｂ低学年分科会北ブロック（司会　大石昂卓　　記録　加藤亜弓）**

①間接指導の工夫について（すき間の工夫）

◇直接指導の中で大切なことをしっかり確認しておく必要がある。

◇話し合いの方向性が曲がらないような事前の指導・手立てが必要。

◇その時学習している単元の質をあげるような問題に取り組ませる。

◇公開教えさせタイム。問題について解き方や考え方を説明させた。

◇予め授業のパワーポイントを作っておいて、子ども自身が早く終わったら自分で進められるように準備している。

棚の前にいる人たち

自動的に生成された説明

**Ｃ中学年分科会南ブロック（司会　岡上泰子　　記録　星　由貴）**

①主体的に活動させる手立てについて

◇待っている間にノート作り（自分として一貫してやると良い）

②複式の授業全般　特に理科・社会のわたりずらしについて。

◇教科をうまく組み合わせる。

◇空いた隙間時間を主体的にする。それこそが複式の強みである。

◇時間で区切り、出来ない場合は友だちのを聞いても良しとして、出来たところまでで交流する。

③少人数の交流の深め方　について

◇子供が２人の場合、意見を言えない子どもに復唱させる、自分の表現をさせる。

◇教師も同じ目線に入るのもひとつ。例えば話し合いに入る。教えるのではなく子どもの立場で言う。

**Ｄ分科会（司会　野田卓矢　記録　平川聖子）**

　①主体的に活動させる手立て

◇黒板をうまく開放し児童に使わせる。話し合われた内容が、黒板を見ると一目瞭然で確認できる。

◇自由に発言できる雰囲気づくり。交錯する話を教師が交通整理する。◇ファシリテーションの活動。

②複式の授業全般。特に社会理科のわたりずらし

◇子ども達に任せて副読本の道筋に沿って活動させる。◇パワーポイントで主体的学びの準備をする。

③少人数の交流の深め方

◇ファシリテーション◇他校との交流学習（今後厚田、浜益、北光の3校で交流学習を行いたい。）

**Ｅ高学年分科会南ブロック（司会　渓口正裕　　記録　鳴海史朗）**

◇外国語のウラは社会でやる。子どもたちが自分たちだけでできそうなものを選んで入れる。

　　◇社会は課題を持たせるところは教師が関わり、関心を高めたところで子どもに渡す。

　　◇全道へき複を機に同時間接の時間を増やすことを考えるようになった。

　　◇家庭学習と授業のリンク。授業を振り返って家庭学習の内容を選択するような児童を育てていく。

　　◇一人一台のタブレットを手軽に活用できている。ただ、意見交流はＩＣＴ機器を使わない方が早い。

**Ｆ高学年分科会北ブロック（司会　大吉　幸　　記録　後藤美咲）**

　◇まずは話し合い、話し合いを最初にすると、新たな疑問や深い理解につなげることができる。

◇話す、聴くという力の強化。お題を出してグループで話し合う。教室に使える言葉を掲示する。

◇社会は教科書を見ながら＋１行書かせる活動。理科は実験道具をそろえた写真を見せて準備させる。

◇タブレット、オンラインで少人数でも対話的な活動が可能。単元ごとの見通しをもって計画的に。

**Ｇ養護教諭分科会（司会　古川亜希子　　記録　柳原流石）**

　　宿泊を伴う学習、校外学習における留意点や役割ついて

①コロナ対策で変更したことは？

　　◇保護者への最初の案内は「万が一体調が悪くなったら迎えに来る」同意書を書いてもらう学校もある。

　　②役割分担は？

　　◇体調不良等の際、誰が引率の団を離れるのか、どうやって戻るのかを決めておく

屋内, 人, テーブル, 座る が含まれている画像

自動的に生成された説明③宿泊施設の部屋に保健室を用意してもらったか？

　　◇養護教諭の宿泊する部屋を使用している学校もある。

④引率の際の救急バッグの中身について

◇アレルギー調査と救急バッグの用意のみ。嘔吐セットはバス移動

　の時はバケツごと持っていく。飛行機に置いてある袋を携帯。

　　⑤行事の際の養護教諭として意見を出す場面

　　◇行事の最初の段階から一緒に考えるのが理想。

　 ⑥朝の健康観察

　　◇玄関で健康観察シートを回収。（極端に低く書いてくる子どもがいる）

　　◇自宅からフォームで健康観察を記入してもらい、玄関でパソコンで確認する。

⑦保健室経営計画

　　◇学校の健康課題を見つけるのが大変。

　　◇子どもとの話の中で生活習慣、ゲームや寝る時間、朝ごはんの摂取率、保護者の話から拾う。

　⑧熱中症対策

◇体育の時に脱がない、マスクを外さない生徒には外す時間を設ける。

　⑨実践してよかったこと、品物

　◇製氷機（ホシザキ）が便利　◇スポットクーラーをコロナ予算で購入している学校が多い

　　○大きなケガに備えて

　・救急車が来るのにかかる時間を確認。・危機管理マニュアルで確認。

　○校内での研修について

　・学校保健の研修を年度初めに確認している。（出停、嘔吐、危機管理マニュアル等）

　○熱中症への備え

　・経口保水液や塩飴を冷蔵庫に入れている。

**Ｈ事務職員分科会（司会　小村秀喜　　記録　細川貴史）**

　 ①ICT機器の整備状況について

　　◇特別教室への電子黒板の導入について予算要望書に記載事務部会として正式に要望した（石狩市）。

　　◇千歳市は複式学級にもかかわらず電子黒板が教室1台分しかない。わたり授業の際に苦慮している。

　　◇ウィンドウズ、グーグルなど導入するツールは管内統一にしてもらえると異動した際に困らない。

②ICT機器以外の備品の整備について

　　◇小規模校は配分額が小額のため対応できないことが多い。

③旅費配分について

◇配分額が少なくなり、会議の回数は増えているので心配。出張に行かない選択肢の　検討も必要。

**Ⅲ．部会研究の成果と課題**

１．成果

　　◎リモートであっても、授業を見て、研究討議をするスタイルは有意義だった。

　　◎音声が聞こえない場面があったが、運営の機転でスマホを使って難を逃れたのは良かった。

　　◎スマホで子どもに近づき、つぶやきの声を拾っていた。近くで見ている環境に近く大変良かった。

　　◎今回の様な形でも実施は可能なので、今後も検討していく。

　　◎複式経験豊富な先生方のお話をたくさん伺うことができ、とても有意義な研究会となった。

２．課題

　　△南北の分科会を選べる形にしていただけると、話しやすく、聞きたい情報が得られたと思う。

　　△公開授業を公開した学年とは繋ぎたかった。いろいろ直接聞きたかった。

　　△分科会（中）の討議の柱は少なく、限定的だったので、もう少し柱を考えた方がよかった。

　　△課題部会一律にリモートではなく、参集が可能な部会は、実施してもいいと思う。

△次年度はぜひ、直接授業を見られるようになることを願っている。

（文責　吉弘文人）